華 頂 短 期 大 学

幼児教育学科

2025 年度

入 試 問 題 集

国語（現代文）

一般選抜 Ⅲ期

二〇二五年度　華頂短期大学　一般選抜入学試験・Ⅲ期（二〇二五年三月十四日施行）

国語（現代文）

（四枚のうち1）

問題一

問一　次のａ～ｅの傍線部の「カイ」の漢字として最も適当なものを、後ろのア～コの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。

ａ　迂（う）カイ路も通れない。
ｂ　神戸もカイ港した。
ｃ　カイ心の作品が出来た。
ｄ　カイ目見当がつかない。
ｅ　人カイ戦術で救助する。

ア　改　　イ　会　　ウ　快　　エ　海　　オ　介
カ　回　　キ　解　　ク　皆　　ケ　開　　コ　懐

問二　次のａ～ｅの空欄には「気」が付く語が入る。最も適当なものを、後ろのア～コの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。

ａ　十分休んで（　　）を養う必要がある。
ｂ　駄目出しばかりで（　　）が上がらない。
ｃ　雑務が多くて（　　）が差す。
ｄ　上司は（　　）を強めて叱った。
ｅ　私にも（　　）盛んな年頃があった。

ア　才気　　イ　嫌気　　ウ　英気　　エ　通気　　オ　語気
カ　好気　　キ　士気　　ク　血気　　ケ　覇気　　コ　和気

問三　次のａ～ｅの空欄に入る色を表す漢字として最も適当なものを、後ろのア～コの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。

ａ　祖父は本当に腹が立ったようで、（　　）筋を立てて怒っていた。
ｂ　投打両面で毎試合活躍する彼女は、まさにチームの大（　　）柱だった。
ｃ　女子高生たちの（　　）色い声援が、好プレーを生んでいるように見えた。
ｄ　私が生徒会長の立候補者の（　　）一点だったことには、さびしい思いがした。
ｅ　身内の利益や裏金などとは無縁の清廉潔（　　）な政治家だった。

ア　白　　イ　黒　　ウ　赤　　エ　青　　オ　紅
カ　黄　　キ　緑　　ク　紺　　ケ　金　　コ　銀

問四　次のａ～ｅの空欄には慣用句を構成する語が入る。最も適当なものを、後ろのア～コの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。

ａ　美しい姉妹と会食して、（　　）の遣り場に困った。
ｂ　名は（　　）を表わすからと言っても、名前に凝りすぎてはいけないだろう。
ｃ　思いの（　　）をぶつけたが、聞き入れてもらえなかった。
ｄ　現場の音声データも出て来て、彼はもう袋の（　　）だ。
ｅ　あれこれと心配したが、（　　）を開けてみるとすべてが順調に運んだ。

ア　手　　イ　目　　ウ　体　　エ　丈（たけ）　　オ　たが
カ　口　　キ　米　　ク　鼠（ねずみ）　　ケ　猫　　コ　蓋

（四枚のうち２）

問題二　次の文章を読み後ろの設問に答えよ。

aアタッチメント理論は、子どもにとっての、大人との関係の意味を教えてくれます。子どもに関わる人、直接間接につながりうるすべての人にアタッチメントを知っていただきたいと思うのは、それが子どもに、自分自身の価値を信じること、安心できるという感覚、人や社会は信頼できるという気持ちを育む基盤であるからです。そして、誰かとの間でそうした気持ちを経験できた子どもは、これから続く長い人生を「何かがあっても何とかなる」という心持ちで歩んでいけるようになると考えるからです。

アタッチメント理論は、イギリスの児童精神科医、ジョン・ボウルビィによって提唱されました。アタッチメント（Attachment）は、我が国では「愛着」と訳され、現在もこの表現が多く用いられています。

「愛着」と聞くと、密なる母子の関係を思い浮かべる方も多いのではないかと思います。親子の間の、本によっては「母子」の間の、特別で深く強い「絆」であると簡潔に説明されることも多いようです。ボウルビィの著書が日本に紹介されたとき、「母子関係」という表現が使用されたことも、象徴的です。とはいえボウルビィの著書自体においても、母子が中心的に扱われることが多かったので、母子関係が想起されやすいのは（　　b　　）。

確かに、子どもが母親との間に築く関係は、重要なアタッチメントの姿です。母子間に、深く強い絆を感じ取った実体験を持つ方もたくさんいるでしょうし、母と子の間の、他者には入りがたいような関係がまとう、あるいはcまとわされている特別感は、大きいように感じられます。

しかしながら、本書の狙いは、「誰か（母親）がやっている子育てを支援する」のではなくて、「誰もが子どもの発達を支える当事者になること」です。ですから、あなたが子どもと関係を作ること、子どもがあなたとの間に築く絆について考えることに主眼を置きます。実際に母親であるかどうかは、重要ではありません。アタッチメントは母子関係に限定された理論でも研究でもないのです。

そのためにまず、愛着の「愛」ではなくて、「着」の方に注目します。愛着という字を読むと「愛」に目が行きがちかもしれないので、この本では「愛着」ではなく、アタッチメントと表します。無論、「愛」も大切ですけれども、ここでは「着」の方を考えたく思いますので、どうかひと時「愛」は忘れてください。

アタッチメントの直訳は、「つくこと」です。子どもは、落ち着かなかったり、心がソワソワしたり、寂しかったり怖かったりするときに、自分よりも大きくて強くて優しくて賢（かしこ）い人に、くっつきます。くっついて安心や安全を感じ、心の穏やかさを取り戻します。心穏やかになれば、持ち前の元気と明るさと勇気を心に取り戻して、子どもは再び遊びに出かけていくでしょう。怖いなぁ、嫌だなぁと感じたときに、あるいはこれから感じそうなときに、大人にくっつきたいと思い、くっつかせてもらい、安全だ、安心だという気持ちを取り戻して感じられること。これがアタッチメントの要です。

くっつく相手は必ずしもお母さん限定ではありません。お父さんだったり、おじいちゃんおばあちゃんだったり、保育園や幼稚園や学校の先生だったりもします。子どもは自分よりも強くて優しい、いろいろな相手との間にアタッチメント関係を築きます。子どもを育て、守り、心を注いで子どもの育ちに関わっている大人は、誰もが、子どもがアタッチメント欲求、くっつきたいという欲求を向ける対象になりえます。その対象の中に、お母さんが含まれることは現実的に多いでしょうが、それは「お母さんでなければならない」ということではありません。

本書では便宜上、子どもと関わる大人を「養育者」と表現したり、具体的な子どもの経験を説明するために、例として「親子関係」や「親」という表現を使用したりします。けれども、繰り返しになりますが、本書で想定している大人は、d子どもの親や親戚、保育、幼児教育、学校の先生、職員の皆様、地域の子育てサークルや乳幼児クラブ、学童クラブに関わる方、習い事や塾の先生、スタッフの方々など、子どもにつながって育ちを支えている大人たちすべてです。さらに、今は直接のつながりはなくても、これから子どもにつながる可能性のある大人たちも含まれます。

よって、「養育者」や「親」という表現を例としている部分を、ご自身の立場に置き換え、子どもと関わる当事者の視点で読み進めていただければと思います。

アタッチメントについてもう一つ重要なのは、大人にもある、ということです。アタッチメント理論を構想したボウルビィは、それが決して幼い子どものものだけではなく「ゆりかごから墓場まで」、つまり、（　　e　　）私たち人間の毎日に、大切な働きをもっているということを示しています。

この本を手に取ってくださった大人のあなたにも、落ち着かなかったり、寂しかったり、怖かったりするときはあるでしょう。そんなときは大人も、強くて優しくて守ってくれる、あなたにとって大切な相手にくっつきます。手をつないだり、抱きしめてもらったりすることで、安心を感じるでしょう。物理的、身体的に相手にくっつくことは、大人になっても安心を感じられる強力な方法です。

（四枚のうち３）

けれども、大人は、物理的に相手にくっつくことができないとき、イメージのレベル（これを表象的レベルと呼びます）で、すなわち頭の中で想像したり心に思い浮かべたりして、その人とのつながりを感じることができます。そのため、大人になるにつれ、くっつき方が変わります。[f]抱っこが電話に、おんぶがメールになるのです。大人のあなたも、そうやって「心の中でくっつく」ことで、穏やかさを取り戻しているはずです。その感覚は、子どもじみているとか、精神的に自立していないといったことでは全くありません。むしろとても自然で、当然で、健康的なことです。

現在、アタッチメント理論は、子どもと大人の関係の研究や臨床的実践の分野のみならず、人の生涯にわたる健康、パーソナリティ発達を理解する枠組みとして幅広い年齢を対象に検討されています。大人の心身の健康や社会的適応、生活との関連が精力的に研究されているのです。この理論が「ゆりかごから墓場まで」私たちに関係していると、多くの研究知見が物語っています。

「くっつくこと」は、甘えや弱さではなくて、むしろ反対の、自律した心の成長を支えるものなのです。私たちは、いつでもくっつけるという確信があるとき、離れることができます。反対に、もうくっつけないかもしれないと思うと、離れがたくなります。逆説的に聞こえるかもしれませんが、くっつくことを考えることは、離れることを考えることになります。

これはアタッチメント理論の中核であり、面白さだと思います。人と人との信頼に満ちた情緒的関係は、まずはくっつくことを思い浮かべさせます。ただそれは同時に、いつでもくっつける関係が自分にはあるという心の安心の感覚、安全の感覚が、しばしその関係から離れることを可能にするのであり、自律的に活動する人間の成長を支えるものになるのです。

本書では、人生の始まりの時期のお話が中心です。けれども、子どもたちは皆、やがて大人になります。皆さんにイメージしていただきたいのは、子どもたちが、信頼できる人との関係の中に安心、安全を感じることによって、自分の足で自分の道を歩む姿です。誰かに手を引っ張ってもらったり、背中を押されたりしながら歩かされる姿ではありません。

手を引いてくれたり、背中を押してくれる人の存在は、とてもありがたいものです。本人のちからでどうにもならないとき、そうやって無理やりにでも歩かせることも、結果的には意味があるということだって、もちろんあるでしょう。しかしながら、アタッチメント理論では、[g]そんなふうに他律的に歩く人間の姿ではなく、自律的に自分の足で歩く人間の姿を考えます。

自律的に歩くということは、一人で歩くということではありません。誰かとつながっているから、必要なときにその人とのつながりをいつでも感じることができるから、私たちは一人で歩くことができます。そうして歩きながら、新しい出会いを得て、新しいつながりをつくっていくのだと思います。この本を読んでいるあなたもきっと、かつてそうして支えられて、一人で歩くことができるようになったことでしょう。そして、一人で歩くのがつらいときは、誰かと手をつなぐことで、もう一歩が踏み出せるという感覚を経験してこられたと思います。

大人の胸に抱かれていた赤ちゃんが、手をつながれて歩いた子どもが、今に一人で歩き始めます。大人は、子どもが自分で、力強く世界を歩んでいくことを願っています。願うだけではちょっと足りないから、私たち大人が具体的にできることを、考えていきます。

（篠原郁子『子どものこころは大人と育つ』に拠る。出題の都合で小見出しは省略した。）

問一　文中の空欄ｂに入る表現として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を答えよ。

ア　日本に特有のものであります
イ　日本に限ったことであります
ウ　日本に限ったことではありません
エ　「愛着」という訳語のせいです
オ　「愛着」という訳語のせいではありません

問二　傍線部ｃに「まとわされている」とあるが、この表現で筆者が言いたいのはどのようなことだと考えられるか。次のア～オの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。

ア　皆で協力してまとうことができているということ
イ　まわりの者がまとうと決めつけているということ
ウ　本人の意に反してまとわされているということ
エ　本能の不思議な力でまとわされているということ
オ　強制的に無理やりまとわされているということ

（四枚のうち４）

問三　傍線部ｄの「子どもの親や親戚、保育、幼児教育、学校の先生、職員の皆様、地域の子育てサークルや乳幼児クラブ、学童クラブに関わる方、習い事や塾の先生、スタッフの方々」の並列関係の説明として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を答えよ。

ア　「子どもの親や親戚」と「保育、幼児教育、学校の先生、職員の皆様、地域の子育てサークルや乳幼児クラブ、学童クラブに関わる方、習い事や塾の先生、スタッフの方々」が並列の関係。

イ　「子どもの親や親戚、保育、幼児教育、学校の先生、職員の皆様」と「地域の子育てサークルや乳幼児クラブ、学童クラブに関わる方、習い事や塾の先生、スタッフの方々」が並列の関係。

ウ　「子どもの親や親戚、保育、幼児教育、学校の先生、職員の皆様」と「地域の子育てサークルや乳幼児クラブ、学童クラブに関わる方」と「習い事や塾の先生、スタッフの方々」。この三つが並列の関係。

エ　「子どもの親や親戚」と「保育、幼児教育、学校の先生、職員の皆様、地域の子育てサークルや乳幼児クラブ、学童クラブに関わる方」と「習い事や塾の先生、スタッフの方々」。この三つが並列の関係。

オ　「子どもの親や親戚」と「保育、幼児教育、学校の先生、職員の皆様」と「地域の子育てサークルや乳幼児クラブ、学童クラブに関わる方」と「習い事や塾の先生、スタッフの方々」。この四つが並列の関係。

問四　空欄ｅに入る表現として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を答えよ。

ア　一生にわたって
イ　あらゆる所で
ウ　寸暇を惜しんで
エ　津々浦々にまで
オ　福祉の全領域で

問五　傍線部ｆの「抱っこが電話に、おんぶがメールになるのです」とは、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を答えよ。

ア　安心感を得る方法が、表象的レベルの抱っこやおんぶから、物理的な電話やメールに替わるということ
イ　安心感を得る方法が、子どもの頃の物理的に相手にくっつく抱っこやおんぶから、表象的レベルで相手にくっつく電話やメールに替わるということ
ウ　大切な相手と手をつないだり、抱きしめてもらったりできないときは、電話やメールをして表象的レベルで大切な相手にくっついて、安心感を得るということ
エ　安心感を得る方法のうち、抱っこが話す電話に相当し、おんぶが書くメールに相当するということ
オ　安心感を得るために、抱っこが大人にとっての電話の役割を、おんぶが大人にとってのメールの役割をするということ

問六　傍線部ｇの「そんなふうに」の指示内容として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を答えよ。

ア　甘えや弱さを表すように
イ　いつでもくっつける関係が自分にはあるという安心感で
ウ　手を引いたり、背中を押したりして無理やりに
エ　無理やりにでも歩かせることも、結果的には意味があるというふうに
オ　一人で歩くのがつらいときは、誰かと手をつないで

問七　傍線部ａに「アタッチメント理論は、子どもにとっての、大人との関係の意味を教えてくれます」とあるが、どのように教えてくれるのか。句読点等も含めて二〇〇字以内で説明せよ。

2025年度入試問題集

模 範 解 答

国語（現代文）

一般選抜 Ⅲ期

二〇二五年度　華頂短期大学
一般選抜入学試験・Ⅲ期（二〇二五年三月十四日施行）

受験番号

国語（現代文）　解答

問題一

問一	問二	問三	問四
a カ	a ウ	a エ	a イ
b ケ	b キ	b イ	b ウ
c イ	c イ	c カ	c エ
d ク	d オ	d オ	d ク
e エ	e ク	e ア	e コ
各2点	各2点	各3点	各3点

問題二

問一	問二	問三	問四	問五	問六
ウ	イ	オ	ア	イ	ウ
5点	6点	6点	5点	7点	6点

問七

子どもは、怖いなぁ、嫌だなぁと感じる子どもを作り出す。

〈例〉

基盤を作り、安心安全な関係を築くことが、自分を大切にする子どもを育てる。

15点

*記入不要